

(法第28条第1項)

平成 29 年度の事業報告書

NPO 法人犬と猫のためのライフポート

1 事業の成果

①の事業では、千葉県・茨城県・福井県・静岡県・山梨県・船橋市の 6 自治体の保健所から、犬 471 頭、猫 825 頭の合計 1,296 頭を引き取り保護した。また飼育管理能力を増やすため、常勤スタッフ約3名相当を増員し、飼育環境を改善するために施設の拡張およびレイアウト変更等を実施した。

②の事業では犬 476 頭、猫 714 頭の合計 1,190 頭を新しい飼い主に譲渡した。飼育管理効率の指標である保護から譲渡までの平均滞在日数は、犬 28.0 日、猫 84.6 日であった。また保護後の死亡率は犬 0.6%、猫 10.5%であった。また譲渡した犬のうち、生後半年以上の少年犬および成犬は 64 頭であった。 ※本年度以前に保護した動物を含む。

③の事業では、発信する情報の見直しおよび、スマートフォンの普及にあわせたページの改修を実施した。なお、幼齢不妊手術に関するホームページの訪問者数はのべ約 8 千人、飼育やしつけに関するホームページの訪問者数はのべ約 10 万 5 千人であった。

④の事業では①で保護した犬 476 頭、猫 709 頭と、外来の犬 1 頭、猫 146 頭の合計 1,332 頭に不妊手術を実施した。 ※本年度以前に保護した動物を含む。

⑤の事業では、発信する情報の見直しおよび、スマートフォンの普及にあわせたページの改修を実施した。なお、全事業の合計ホームページ訪問者数はのべ約 84 万人であった。

⑥の事業では、新規事業開拓のためのニーズの調査、分析等を実施した。

⑦の事業では、損保代理店として、ウェブサイトを通じた保険の販売、情報提供などを実施した。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数
①行政施設で殺処分される犬猫を引き取り保護・飼育する施設（アニマルシェルター）を運営する事業	保健所や愛護センターなどの行政施設で殺処分直前の犬猫を施設に保護して、譲渡のための健康管理やしつけ等を行う。 また、譲渡が困難な犬猫については、施設で生涯飼育する。	随時	法人事務所	11 名	千葉県、茨城県、福井県、静岡県、山梨県、船橋市の 6 自治体。

②行政施設から引き取った犬猫に不妊手術を施し、新しい飼育者へ譲渡する事業	前記事業で保護した犬猫たちに不妊手術を施し、新しい飼い主に譲渡する。	随時	法人事務所、東京都、神奈川県	9名	犬猫の飼育希望者のべ1,190家族。
③幼齢避妊去勢手術の普及と犬猫の適正な飼育を啓発する事業	団体ホームページで幼齢不妊手術についての情報提供や啓発を行う。	随時	法人事務所	1名	不特定多数のホームページ訪問者のべ約11万3千人。
④幼齢避妊去勢手術を主たる目的とした動物病院事業	団体が保護中の犬猫の不妊手術および、保護団体や個人が保護する犬猫を対象に、幼齢不妊手術外来を提供する動物病院を運営する。	随時	法人事務所附属の動物病院	5名	犬猫合計1,332頭に不妊手術を実施。
⑤この法人の特定非営利活動に係る事業に関する情報提供・サービス事業	主にインターネットを通じて、前記事業すべてに対する情報発信を行う。	随時	法人事務所	2名	不特定多数のホームページ訪問者のべ約84万人。※③の事業を含む
⑥その他この法人の目的の達成のために必要な事業	新規事業を模索し、開拓し、立ち上げるために必要な調査・研究・準備等を行う。	随時	全国	1名	不特定多数

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数
⑥損害保険代理業	事業を通して飼い主と動物にとってより良い生活の助けとなる保険代理業を実施する。	随時	法人事務所	1名

以上

2018年5月20日

NPO 法人犬と猫のためのライフポート

2017年度事業報告書

<この事業報告書について>

行政機関へ提出する事業報告書を補完し、当団体を応援して下さる皆様によりわかりやすいメッセージをお届けするために書かれたものです。

<犬と猫の保護と譲渡について>

2017度は年間の譲渡目標を犬 550 頭、猫 750 頭の合計 1,300 頭としていました。またそれらを実現するための目安として、受入目標と譲渡までの滞在日数、および死亡率の目標も立てて活動して参りました。

目標	受入	譲渡	死亡率	滞在日数
犬	560	550 ^{*1}	5%以下	30日以下
猫	840 ^{*2}	750	10%以下	45日以下

*1 うち少年犬・成犬 20 頭 *2 上半期 580、下半期 260

犬	2015年度	2016年度	2017年度	
	実績	実績	実績	目標達成率
受入	546	557	471	82%
譲渡	537	531	476 ^{*1}	87%
死亡	17	3	3	
死亡率	3.1%	0.5%	0.7%	達成
滞在日数	37日	32日	28日	達成

*1 うち生後半年以上の少年犬・成犬は 64 頭

犬は受入・譲渡共に目標達成率は約 8 割と、及ばない結果でした。

特に子犬の受入数が減少傾向にあることが大きく影響しましたが、これは全国的に犬の殺処分が減っているためです。こうした状況から、これまで手を出せなかった、生後半年以上の少年犬・成犬（以下、成犬）の保護と譲渡にも力を入れてきました。

もちろん、まだまだ子犬の数が圧倒的に多いのですが、例年 10 頭にも満たなかった成犬の受入が今年度は 31 頭になりました。

前年度までに保護した犬も含めて 64 頭の成犬を譲渡することができましたので、一定の成果を残せたものと考えております。

猫	2015 年度	2016 年度	2017 年度	
	結果	結果	結果	目標達成率
受入	681	654	825	98%
譲渡	635	616	716	95%
死亡	62	37	87	
死亡率	9.1%	5.7%	10.6%	未達
滞在日数	58 日	67 日	85 日	未達

猫は受入・譲渡共にあと半歩及ばなかったものの、どちらも高い達成率を実現することができ、ここ数年の平均的な譲渡数を 100 頭近く上回ることができました。

滞在日数は目標 45 日以下に対して 85 日と大きく及びませんでしたが、これは特に飼育ビークの 7 月以降に鼻気管炎などの完治までに時間がかかる病気がまん延しやすくなったことで不妊手術の実施も遅れ、結果として譲渡までの日数が伸びたことが主な原因です。こうした病気にはその年ごとの流行の違いもあり、単純に解決できるものではありませんが、更に詳細な原因を分析して次年度以降の活動に活かしたい考えです。

(参考) 過去の滞在日数

	2010	2011	2012	2013	2014
滞在日数	78 日	78 日	86 日	63 日	94 日

滞在日数は、受入・飼育・医療・譲渡が全てかみ合って、初めて短縮することのできる目標ですので、これからも大切な指標として参ります。

<成犬・成猫の譲渡促進について>

前記の通り、成犬の年間譲渡目標を大きく超えることができました。子犬の保護数は今後とも減少していくと思われますので、その分成犬の保護と譲渡に力を入れて参ります。成猫は前年度にリニューアルした「ふれあい面会ルーム」が引き続き好評で、同部屋以外の子も含めて 29 頭の成猫を譲渡しました。猫は数値目標を設定していませんが、引き続き良いご縁が増えるように活動いたします。

<犬のマイクロチップ全頭導入について>

迷子や脱走などで、万が一保健所に持ち込まれてしまった場合に、少しでも早く、そして確実に飼い主の元に帰れるよう、2017年度は犬のマイクロチップ全頭導入を進めて参りました。

計画通り犬 447 頭への挿入を実施しました。現在のところ大きなトラブルや里親さんからご心配の声をいただくことはありませんが、引き続き慎重に進めて参ります。

<外来不妊手術について>

年度目標の 130 件に対して 147 件（うち犬 1 件）の外來不妊手術を実施することができました。引き続き地域で保護活動する方の力になれるように実施いたします。

<施設の増改築と環境改善について>

前年度 9 月に竣工した猫の新館が当年度春から稼働しています。このことで猫の飼育スペースはもちろん、今まで猫がいた場所を犬に使うことで施設を拡充することができました。成犬たちの見せ方を改善して譲渡につなげるための施設のレイアウト変更などを実施していますが、予定よりも大幅に遅れているため、2018 年度内の完了を目指して引き続き実施して参ります。

<人員の確保と現場組織の改変について>

前年度から進めているフラットな現場組織づくりは一步ずつ進んでいます。特に当年度の第二四半期には子犬の受入数が急減した時期がありましたが、この施策が一定の功を奏し、猫の飼育管理への人員の振り分けなど、柔軟な配置をすることができました。人手不足は相変わらずですが、引き続き増員と教育を進めて参ります。

<ボランティアの活用について>

4 月から 8 月を中心に 6 家族のミルクボランティアさんにご協力いただき、のべ 400 日以上の赤ちゃん猫の飼育にご協力いただきました。お陰様で多くの子が元気に育って巣立って行きました。

予定していた成犬の自宅預かりボランティアについては、咬傷事故や脱走のリスクが十分に回避できないと判断したため当年度は見送り、団体としての体制が整った後に再検討することといたしました。

<コンテンツの充実について>

コンテンツの内容そのものに大きな追加や変更は行いませんでしたが、近年増加するスマートフォンでの閲覧者の利便性を高めるために技術的な対応を進めました。

これはあくまで手段に過ぎませんが、当団体の情報発信はその大部分をインターネットに依存しており、またスマホの普及で情報発信の在り方が大きく変わる可能性もあるため、引き続き動向に注意を払い、有効な手段の一つとして活用して参ります。

<その他の活動について>

事業目標に織り込んだその他の計画である、幹部候補募集、ペット保険代理業、新規事業開拓については一步一步進めているものの、具体的なお報告が出来る段階までには至っていません。引き続き推し進めて参ります。

<改めまして皆様にお礼申し上げます>

未筆ながら当団体の活動を応援して下さる全ての皆様に改めましてお礼申し上げます。

犬猫をご家族に迎えてくださる里親様、活動を支援するために寄付金や物資をお送りくださる皆様、施設や譲渡会のボランティアとして参加して下さる皆様、殺処分から譲渡へと転換するために行政機関で働く職員の皆様はじめ、当団体の活動は、ここに書ききれない数多くの方々の応援で成り立っています。

明日のフード代にも困っていた10年前、2011年の施設移転、2014年の経営危機など多くの場面を皆様のご協力のもとに乗り越えることができ、今もこうして活動することができています。

これからも一頭でも多くの子を救うために尽力いたしますので応援をよろしくお願いいたします。

NPO 法人犬と猫のためのライフポート
理事長 稲葉友治